

2020年3月27日

地域防災課題解決プロジェクト（最終報告）

地域の防災に対する意識の向上と
主体的で継続した取組を図れるような仕組みづくり

伊賀市

みえ防災・減災センター 連携研究員 藤田勝行

伊賀市地域防災課題解決プロジェクト最終報告書

第1章 取組の意義

1 伊賀市の現状

伊賀市は平成16年に6市町村が合併し、東西約30km、南北約40kmの縦長で、約558km²の広大な面積を有する。森林が全体の62%を占め、宅地5%が点在するため、集落間の距離が離れている地域が多い。少子高齢化が進み、高齢化率も30%を超え、特に市街地外の高齢化率が高く、防災を担う人材は不足している。高齢者の中には災害時に自力で避難行動をとることが困難な避難行動要支援者も多く、行政機関だけで対応するには限界があり、「自助」の取り組みのみならず、地域の防災リーダーとなりうる人材の育成をはじめとした「共助」の取り組みにより地域防災力の総合的な向上を図ることが急務である。

しかしながら、共助の中核として期待される自主防災組織は、市内で結成率96%を超え、ほとんどの地域で結成されているものの、少子高齢化による担い手の不足などにより、実態は活動しない組織も少なくない。また、自治会長が自主防災組織の代表、組長が役員となるようにあて職である自主防災組織がほとんどで、役員の任期は1年または2年しかなく、毎年同じことを繰り返し、組織の熟成は望めない状況となっている。

当市では南海トラフ巨大地震や木津川断層、頓宮断層直下型地震により、広域で震度6弱以上の地震が発生することを想定しており、大規模災害が発生すれば市域が広大であるがゆえに公助は一層当てにできず、孤立地区が多数発生することも予想されるため、頼れるところはまさに自助・共助のみである。

現在の自主防災組織の問題点を解決し、地域ぐるみで防災意識の向上を図っていくことが伊賀市の課題であると考える。

2 伊賀市の取組方針

伊賀市では平成28年の熊本地震を契機に、防災意識の向上を図るべく、地域への防災講話等の取組をスタートし、平成29年度には三重県・伊賀市・尾鷲市・紀北町総合防災訓練を行い、今までよりも地域の防災への関心が少なからず高まっている気配があることから、平成30年度以降は地域と一緒に実動型の伊賀市総合防災訓練を行うこととしており、これと絡めた地域防災力向上取組を行う方針である。

3 伊賀市の目標（住民主体の避難所運営体制の構築、消防団自主防活性化ほか）

平成29年度の防災訓練において、実施地区である西柘植地区では地域が避

避難所を運営するということに関心があったため、避難所運営訓練を実施するまでの取組を行ったが、他地域でも避難所運営には関心があることから、取組実施地域が伊賀市防災訓練において住民主体の避難所運営訓練に取り組むことを地域目標に設定し、消防団&自主防活性化を進めながら地域の防災力向上を目指すことを目標とする。

4 地域防災課題解決プロジェクトとしての取組方法

地域の防災に対する意識の向上と、主体的で継続した取組を図れるような仕組みづくりを検討する。地域とともに実施する実動型の伊賀市総合防災訓練を取組成果の確認する場所に据えて、「地域主導で今後も取組を継続していこう」をコンセプトに取組を行う。なお、プロジェクトに参加する伊勢市とは避難所運営（訓練）という共通の課題があるため、連携した取組を実施していく。

第2章 伊賀市地域防災課題解決プロジェクトの計画及び実施内容

1 平成30年度

(1) 取組地区の選定

平成30年度取組地区は山田地域とする。山田地域は平成16年に住民自治協議会を設立してから今まで地域全体で防災訓練をしたことがなく、地区単位でも一度も防災訓練を行ったことがない地区もあるなど、防災取組には消極的な地域である。しかし、近年多発している災害に対し「このままでいいのか？」という思いがあり、何とかしたいということで、伊賀市総合防災訓練を実施するのでというテコ入れにあわせて伊賀市地域防災課題解決プロジェクトとして取り組むことにした。

(2) 取組地区の概要

山田地域は伊賀市の東部、上野盆地の東端に位置し、東は急峻な布引山地があり、全国でも発生確率が比較的高い頓宮断層（活断層）が南北に走っているため、備えが必要である。山田地域の人口は、平成30年3月31日の時点で3,488人（1,348世帯）、高齢化率は32.6%で、13の地区（千戸、真泥、畑村、炊村、甲野、虹ヶ丘、鳳凰寺、中村、出後、富岡、中島、平田、大沢）から構成される山田地



域住民自治協議会を中心に地域活動を実施している。

(3) 取組内容

【当初の地域取組案】

地域へ事業の説明を行うにあたり提示した取組内容案。

取 組 内 容	開催日時・場所
第1回 防災講演会(キックオフ) 三重大学 川口 淳 准教授	6月24日(日) 大山田農村環境改善センター
第2回 HUG(避難所運営ゲーム)訓練 避難所の運営について、ゲーム形式のワークショップを通じて当地域の課題やイメージをつかむ。	7月開催予定
第3回 第1回避難所準備(訓練検討)委員会 避難所運営について話し合い、意見交換を実施。	8月開催予定
第4回 第2回避難所準備(訓練検討)委員会 考えた避難所運営計画をまとめる。(それをもとに伊賀市防災訓練を実施します。)	9月開催予定
伊賀市総合防災訓練(避難所運営訓練)	11月4日(日) 大山田小学校体育館
第5回 第3回避難所準備(訓練検討)委員会 振り返りのワークショップ。今年度実施事業の反省をふまえ、次年度に向けた計画の作成等を行う。	12月開催予定

伊賀市総合防災訓練にあわせて、地域主体での避難所運営訓練ができることを目標として予定を組んだもの。

ねらい

- 第1回 地域全体の防災意識の向上と取組へのやる気アップ
- 第2回 避難所運営に対するイメージを持ってもらう
- 第3回 地域防災訓練の内容作成
- 第4回 地域防災訓練の内容検討、準備
- 地域防災訓練(伊賀市総合防災訓練)の実施
- 第5回 取組を振り返って、次年度計画を作成

結果として、実施した取組はこの予定とは異なっている。次から、取り組んだ内容を示す。

【実施した取組内容】

○6月24日 防災講演会（キックオフ）



プロジェクトのキックオフとして、地域の防災意識の底上げを目的に、川口先生による「住民共助による避難所の運営について」と題した講演会を実施。山田地域を中心に、市内の住民130名が参加。

講演前に川口先生と山田地域の主要メンバーが話し合う機会をセッティングしたところ、住民自治協議会会長や山田自治協防災・安全部会員、副市長、市職員らが意見交換することができた。

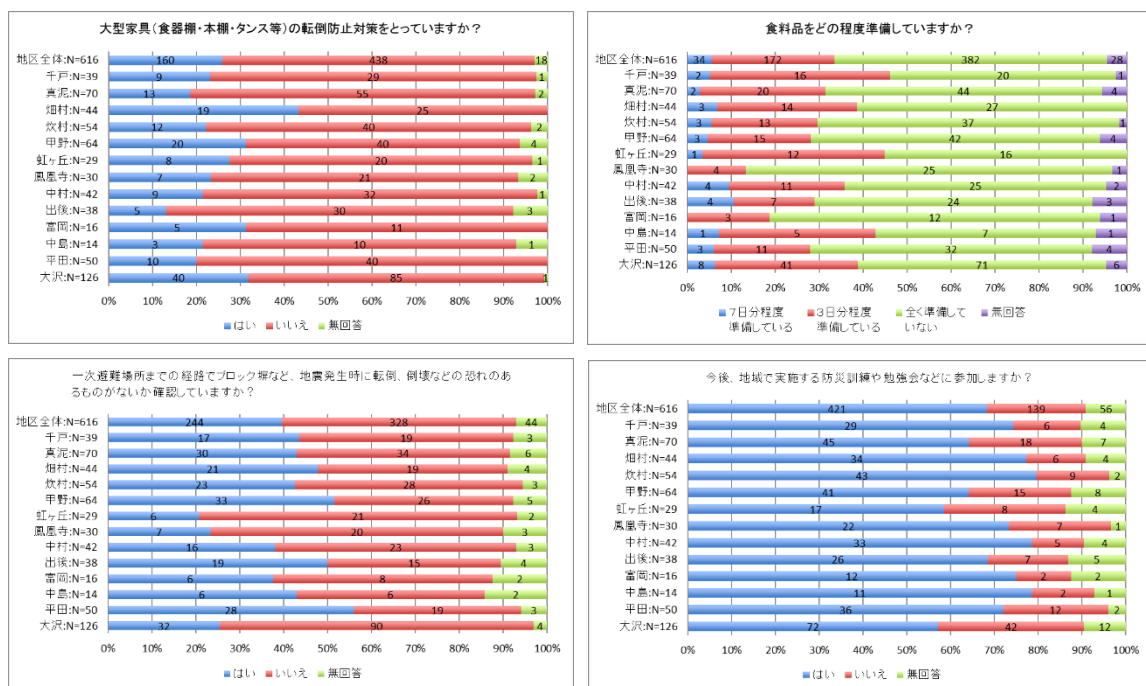
講演後に防災・安全部会長らと話をした。「やらなければいけない防災取組のボリュームに圧倒され、訓練までに何をどうすればいいのか悩んでいる。」「今年を機会に来年以降も取組継続していきたいがどうすればできるようになるのか不安。」などの意見が出た。意見を踏まえ、次回実施予定のHUG（避難所運営ゲーム）訓練は予定通り気軽に体験してみることとし、防災に対する住民意識を確認し、地域の目標や取組を行う方向性を決めていくためにも全戸アンケートを実施することにした。

○7月中旬～下旬 地震防災に関するアンケート（全戸調査）

地域全戸（1,113世帯）へ配布。最終的な回収率は55%。アンケート結果については次頁を参照（一部掲載）。

回収率についても地区によって差が大きく、防災意識の高い地区と低い地区が混在している。大まかな結果として、地域の防災意識は低く、特に「備え」に対して顕著だった。また避難に対する理解度は低く、住民主体の避難所運営訓練

を行うには、今のレベルでは困難であると感じた。ただし、地域の防災勉強会等への参加意欲はとても高いという結果であったため、まずは地域全体の防災意識の底上げを目指し、地域が一緒になって防災訓練を行うところからまずスタートすることでいいのではないかと思います。



○8月7日 HUG（避難所運営ゲーム）訓練

山田自治協防災・安全部会を対象として、避難所運営のイメージを持ってもらうこととその際の課題を考えてもらうねらいで実施。防災・安全部会員10名が参加。

HUG の振り返りで、「避難所運営について前よりイメージできるようになった。」「事前の準備が大切だとわかった。」などの気付きや、「自分たちで避難所運営できるか不安。」「一人では困難。サブリーダーも増やす必要がある。」「トイレの対応が難しい。」などの意見が出された。結果的に避難所運営へのハードルが相当高いということを実感した。



○9月13日 第1回防災検討会（区長会）

11月4日に行う防災訓練の内容と課題について意見交換を実施。出席者は16名。

はじめに、市担当者から今年度の伊賀市総合防災訓練の概要を説明。次に、避難所や訓練のイメージを持ってもらうため、西日本豪雨の被災地派遣での避難所の状況と、山田地域のハザードの再確認、避難所でおこりうる課題と事前の準備が大切であることを説明。

山田地域は、今まで地域全体で防災訓練は行ったことがなく、十数年防災訓練を行っていない地区もあるなど、地域としてどんな訓練をしようかと考えることはやはり難しく、「市は私たちに何をしてほしいのか？」「何をすればよいのか？」といった訓練がイメージできないための意見が多く出た。地域で必要なことを実施することのほうが大切であるので、当初頭出しした避難所運営訓練は別に行わなくてもよく、できることから取り組み、継続していくように考えてもらい、意見を出してもらった結果、11月の防災訓練には、地域の防災意識の底上げをねらい「地区の中で避難訓練を行い、安否確認をきちんとできるようにすること」「避難所の受付と収容、体験」をする方向で意見がまとまった。

○9月25日 第2回防災検討会（防災・安全部会）

11月4日に行う防災訓練の内容について検討会を実施。出席者は11名。前回の区長会で訓練の大まかな方向性がまとまったため、詳細について検討を行った。

訓練の構成は2部構成とし、第1部が地区の訓練、第2部が地域の訓練とする骨子が固まった。

【第1部】 全住民対象の避難訓練

8時に頓宮断層を震源とする直下型地震（震度6強の強い揺れ）が発生することを想定したシェイクアウト訓練を実施。その後、各地区の一時立寄り所まで避難訓練。区長（または責任者）は地区内の安否確認や被害状況の把握を行う。

【第2部】地区役員らと参加希望者対象の避難所訓練

地域役員と防災・安全部会員らは山田地域災害対策本部を避難所（大山田小学校）に設置する（施設簡易安全点検含む）。また、受付を設置し、各地区の安否確認・被害状況を把握し、避難者の受け入れを行う。各地区役員らは避難所（大山田小学校）までの避難経路の状況を確認しながら避難し、山田地域災害対策本部まで情報伝達を行う。その後、参加者全員で起震車・煙道体験、消火器訓練、物資訓練などを実施する。川口先生の防災講話、講評も予定している。

訓練内容の周知については、区長会において訓練での役割や詳細内容について、用いる様式（案）などを提示して説明を行ったうえで、市広報配布にあわせて全戸にチラシを配布することと決定した。



平成30年度 山田地域防災訓練開催のお知らせ

平成30年度伊賀市総合防災訓練が大山田小学校で開催されます。それに合わせて、山田地域防災訓練を開催しますので、地域の皆さまには、ご参加いただきますようお願いいたします。

と き 平成30年11月4日（日）8時00分～
と ころ 各地区（第1部）→大山田小学校（第2部）

～訓練内容～

第1部 訓練

8:00 シェイクアウト訓練 対象：全住民
8:00に防災無線にて、緊急地震速報（地震発生）の放送を行います。その時、居る場所で、身を守る行動をしてください。
シェイクアウト訓練とは？
地震の直後の安全確保行動1-2-3
「まず低く、頭を守り、動かない」
DROPT COVER! HOLD ON!

8:10～ 避難訓練（一時立寄り所まで） 対象：全住民
身の安全を確保した後、各地区で決められている一時立寄り所に避難してください。（※お持ちの方は非常持ち出し袋やヘルメットなど持参）
また、区長さんは地区内の安否確認・被害状況をまとめてください。

8:30～ 情報伝達訓練 対象：地区の役員など
各地区の安否や被害状況を、区民自治協議会までとの訓練です。
大山田小学校体育館前に集合（臨場確認）してください。

以下は第2部訓練参加者の内容です。参加自由ですので是非お越しください。

第2部 訓練

9:00～ 避難所開設準備・避難者受付・収容訓練 ほか
対象：各地区の訓練参加者
大山田小学校の生徒 など

9:30～ 起震車・煙退体験・消火器・物資訓練、防災講話
対象：上と同じ

10:45～ 閉会式・訓練講評 対象：訓練参加者全員

【お問合せ先】山田地域住民自治協議会 防災・安全部会 電話 47-1777（市民センター）

○10月9日 第3回防災検討会（区長会）

出席者15名。前回の検討会の内容を説明し、訓練と準備の検討を行った。

訓練で使用する様式（案）については、既存の様式や簡易な様式を作成して確認していただいたが、このままの様式を訓練当日使用することで決定した。（区民名簿をすでに作成してある地区から、安否確認についてその名簿を利用していいのかと質問があったが、その方が断然いいやり方であるし、使ってくださいとの回答を行った。訓練を通じて次年度以降の要配慮者情報も含む地区名簿作りなどの必要性がわかってもらえればと思う。）

地域全体で行う訓練は今回がまずスタートということで、取組を継続し、少しずつ災害に強い地域になっていければという流れになった。

○10月15日 第4回防災検討会（防災・安全部会）

出席者10名。訓練の準備物や当日の段取りを再確認した。

山田地域の災害対策本部としての動きで、いくつか追加案があり急遽実施することに決定した。

追加した事項は、建物（小学校体育館）の安全点検（簡易判定）実施、地域の安否確認集計結果を市（仮想対策本部または大山田支所）へ報告。

当日の訓練では、地区（区長）との連携がうまくいくかが心配事項だった。

○11月4日 山田地域総合防災訓練（伊賀市総合防災訓練）

天候は小雨であったが、予定通り防災訓練は実施。

8時に防災無線にて緊急地震速報（地震発生）を放送し、シェイクアウト訓練から開始した。鳳凰寺地区と中村地区では避難訓練の様子を確認。

【鳳凰寺地区】



訓練参加者84名。（安否確認114名。）地区の一時避難場所に集合し、その後徒歩にて避難経路の安全確認を行いながら大山田小学校へ避難。参加率が高く、数人は非常持ち出し袋を持参しており、ヘルメットを着用している方も多く、比較的防災意識が高いと感じる。

【中村地区】



訓練参加者61名。一時避難所に集合した後、車乗り合わせで大山田小学校へ避難。参加者の非常持ち出し袋等の持参はほとんどなかった。

大山田小学校（避難所）では、区長により安否確認の報告が行われた。また、防災・安全部会員を中心に避難者受付訓練が行われ、地区ごとに受付・避難所への収容を実施。



ただ、初めてのことであるのでバタバタしてしまったという反省があった。
当初は収容後に各地区の参加者に外の展示ブースで、起震車、煙道体験、消火器訓練を実施していただく予定となっていたが、天候不良のため、屋内にとどまっていた方が多かった。
川口先生の防災講話は好評だった。



座学の機会も定期的に作ってほしいという意見もあった。

全体的な雰囲気としては、参加者は多く、地域全体の取組としてはやっただけのことはあったと思うが、天候不良により時間を持て余した感想を持たれた方が多かったのは残念だった。

○1月22日 第5回防災検討会（区長会）

出席者15名。山田地域総合防災訓練の振り返りワークショップを行った。議題は3点。

①地区の反応（感想）はどうでしたか？

<出た主な意見>

- ・訓練内容が不明確、周知不足
- ・小中学生の参加が少なかった

- ・防災無線が鳴らなかった、聞こえなかった
- ・思ったよりは参加者が多かった

②訓練をやってみて、良かったところ、心配なところは？

<出た主な意見>

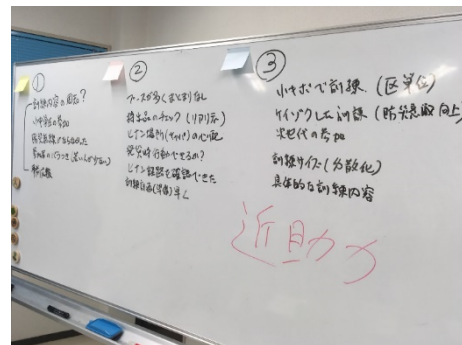
- ・緊張感がない（リアリティに欠ける）
- ・実災害で行動を起こせるか心配
- ・訓練計画の準備不足
- ・訓練は必要。今後も繰り返す必要がある

③訓練を振り返って、防災視点で今後地域はどうすればよいですか？

<出た主な意見>

- ・各地区での訓練も大切
- ・訓練の規模（複数避難所等）見直し
- ・地域の防災体制を担う人づくり（次世代へ継承）
- ・継続した訓練を行う（防災意識の向上）

準備不足な感想を持たれたようだが、前向きな意見が多く、地域として今後も継続的に防災取組を実施していくことが確認できたいいワークショップだった。



○3月 山田地域防災つうしん各戸配布

防災意識の向上と来年度以降への取組継続を狙い、今年度の取組を目に見える形にして地域全戸に配布した。

山田地域防災つうしん

山田地域住民自治協議会 防災・安全部会 第2018年度号

2018年度の防災活動おさらい（山田地域総合防災訓練）

6月24日（日）
三重大学の川口准教授による講演
『住民共助による避難所の運営について』

『住民共助による避難所の運営について』と題して、大山田農村環境改善センターにてご講演いただきました。災害時に、それを乗り越えるために自分と家族で取り組むこと、地域が協力してやることを考えさせられるお話をしました。今年度の山田地域に向けてのメールだととらえ、地域全体の防災取組を少しずつやっていこうとスタートを切りました！

7月下旬（全地区） 山田地域の現時点の防災意識を把握し、今後の取組の指標とするため、全戸配布し、地震防災に関するアンケートを実施しました。皆様ご協力ありがとうございました！

山田地域の地震防災に関するアンケート結果のポイント

- 地域の「備え」に対する意識は低い
- 避難についての理解度は低い
- 今後、防災勉強会等への参加意欲はとても高い！

※アンケート全集計データを見たい方は防災・安全部会までお声がけください。

8月7日（火）
HUG訓練
（避難所運営ゲーム）

防災・安全部会にて、HUGを実施しました。山田地域で地震災害が発生したことを想像しながら、仮想避難所での対応をみんなで考えました。



少しずつ頑張ろう！



9月13日（木） 第1回防災検討会

9月25日（火） 第2回防災検討会

10月9日（火） 第3回防災検討会

10月15日（月） 第4回防災検討会

伊賀市総合防災訓練にあわせて実施する山田地域防災訓練について、イメージ→内容検討→内容決定→準備・手順確認と議論を重ね、地域全体で取り組む総合防災訓練計画を作成しました。

山田地域防災訓練計画の完成

11月4日（日） 山田地域総合防災訓練








1月22日（火） 第5回防災検討会（訓練ふりかえり）

○振り返って：訓練内容の周知不足、防災無線が鳴らなかった、緊張感がなかった（リアリティに欠ける）、実災害で行動できるか心配、各地区ごとの訓練も大切、地域の防災体制を担う人づくりが必要、継続した訓練が必要、今後も繰り返し実施する etc 多くの意見が出されました。

今後の山田地域の防災活動について

○継続して山田地域の防災訓練を実施
○地域の防災意識を少しずつ高める

自治協会長より

地域の共助で災害時死者0を目指して歩み続けましょう！！

（４） 成果の活用と課題についての考察

取組スケジュールについて、取組開始時点の【当初の地域取組案】と最終的に実施した取組を比較することで、見えるものが大きいのではないかと考える。

【実施した取組】

取 組 内 容	開催日時・場所
第1回 防災講演会(キックオフ) 三重大学 川口 淳 准教授	6月24日(日)
大山田全世帯防災アンケートの実施	7月中
第2回 HUG(避難所運営ゲーム)訓練 避難所の運営について、ゲーム形式のワークショップを通じて当地域の課題やイメージをつかむ。	8月7日(火)
第3回 第1回防災検討会	9月13日(木)
第4回 第2回防災検討会	9月25日(火)
第5回 第3回防災検討会	10月9日(火)
第6回 第4回防災検討会	10月15日(月)
山田地域防災訓練(避難訓練+避難所体験)	11月4日(日) 大山田小学校体育館
第7回 第5回防災検討会(振り返り) 振り返りのワークショップ。今年度実施事業の反省をふまえ、次年度に向けた方向性を議論。	1月22日
今年度取組をまとめたチラシを全戸配布	3月配布予定

全体の予定としてはそんなに変更がないように見えるが、大きな転換点がいくつかあり、今回のポイントだったと思う。

1：防災講演会のあと、地域代表らとの話し合いのなかで、地域主体の避難所運営なんてとてもできないという意識が強かったため、1年での避難所運営訓練実施は困難であると方向修正することにした。また、その方向性を見定めるために、取組前の全戸アンケートを実施し、今の地域の防災課題を目に見える形にした。

2：当初は、取組を行う上で、特別な枠組み（組織）を作ろうと思っていたが、地域の組織体制の変更は困難であり、既存の「区長会」と「防災・安全部会」という組織をうまくつなげるように変更した。

3：最終的に防災訓練は、「今の地域としてできること」がある程度形になったと思う。

大きな目標に向かって取組を進めるうえで、取組の継続を狙うには、毎回取組を実施するたびに振り返り、次回取組に修正を加えることが必要で、地域の持つ防災力（地域力）を理解し、無理せずできるレベルを把握し、地域がやりたい方向で取組を実施することではないかと考えている。令和元年度以降も継続した取組を行っていただくよう促した。

2 令和元年度

（1） 取組地区の選定

令和元年度取組地域は三田地域とする。ここ数年、地域の防災に関する意識が高まってはいるものの、年に複数回行っている防災取組はイベントと化しており、近年の水害に見舞われた一部地区以外の地区は関心が低い。今後、地域全体としてどうしていくべきか課題解決の糸口を見出すべく、伊賀市地域防災課題解決プロジェクトとして取り組むことにした。

（2） 取組地区の概要

三田地域は伊賀市の北部に位置し、北側の山地には木津川断層帯が東西に走っており、1854年の伊賀上野地震で多くの被害が出た地域である。また、昭和28年の東近畿大水害で大きな被害が発生し、近年でも平成25年の台風18号の影響で床上浸水被害の発生した地域で、伊賀市内でも地震を過去に経験し、身近に風水害のおそれのあ



る地域である。三田地域の人口は、平成31年3月31日時点で1,913人(931世帯)、高齢化率は30.5%で、6つの地区(大谷、東三田、西三田、安福寺、高砂、野間)から構成される三田地区住民自治協議会を中心に地域活動を実施している。

(3) 取組内容

【当初の地域取組案】

地域へ事業の説明を行うにあたり提示した取組内容案。

三田地区取組案	開催日時・場所
第0回 防災講演会(プレキックオフ) 三重大学 川口 淳 准教授	1月27日(日)地区市民センター
第1回 第1回地域防災検討会議(区長会説明) 三田地域の防災取組の進め方の説明会	4月11日(木)18時～
第2回 HUG(避難所運営ゲーム)訓練 避難所の運営について、ゲーム形式のワークショップを通じて当地域の課題やイメージをつかむ。	5月開催予定
第3回 第2回地域防災検討会議 三田地域の防災課題出しと今後の組織や進め方の検討	6月開催予定
第4回 三田地区・府中地区合同防災講演会＋ディスカッション 三重大学 川口 淳 准教授	7月15日(祝)
第5回・第6回 第1回・第2回避難所準備(訓練検討)委員会 考えた避難所運営計画をまとめる。(それをもとに伊賀市防災訓練を実施します。)	8・9月＋α開催予定
三田地区総合防災訓練(避難所運営訓練)・伊賀市総合防災訓練	10月27日(日) 三訪小学校体育館
第7回・第8回 第3回・第4回地域防災検討会議 振り返りのワークショップ。今年度実施事業の反省をふまえ、次年度に向けた計画の作成等を行う。	11・12月＋α開催予定

平成30年度同様伊賀市総合防災訓練にあわせて、地域主体での避難所運営訓練ができることを目標として予定を組んだもの。

ねらい

- 第0回 地域全体の防災意識の向上と取組へのやる気アップ防災講演会
- 第1回 取組への説明とその体制等を検討する
- 第2回 避難所運営に対するイメージを持ってもらう
- 第3回 地域＋地域外の防災意識の向上と取組へのやる気アップ防災講演会
- 第4回 地域防災訓練の内容作成、議論、準備
- 第5回・第6回 地域防災訓練の内容作成、議論、準備
- 地域防災訓練(伊賀市総合防災訓練)の実施
- 第7回・第8回 取組を振り返って、次年度計画を作成

昨年同様、実施した取組はこの予定とは異なっている。次から、取り組んだ内容を示す。

【実施した取組内容】

○1月27日 防災講演会（プレキックオフ）



プロジェクトのプレキックオフとして、昨年よりも地域の防災意識の向上を目的に、川口先生による「災害につよい地域づくり」と題した講演会を実施。三田地区の住民80名が参加。

よかったとの感想多数。



講演会の前には、住民の地震災害時安否確認訓練が実施されている。住民が集まる機会に講演会などの防災啓発活動は組みやすいが、三田地区では目的を持った住民主体の企画として実施されていないので、イベントと化している感は否めない。

○4月11日 第1回地域防災検討会議（区長会説明）

10月27日に行う防災訓練に向けての初会議。出席者は12名。

はじめに、伊賀市総合防災訓練にあわせて実施する三田地区防災訓練までに実施したいスケジュール案を説明。その後、どのような体制で取組を進めていくかの意見交換を行った。

三田地区は、ここ数年、年2回も安否確認訓練を実施するなど、比較的防災意識が高い地域だという市の認識があったが、区長らから出た意見は「忙しいのに防災までしなければいけないのか？」「訓練は何をすればいいかわからない」な

ど、市の認識とはかけ離れた意見が多く出た。三田地区住民自治協議会には防災を担当する生活環境部会があるため、今後はここで訓練を含め検討を行うこととなった。

その後、生活環境部会の部会長、副部会長らと打ち合わせを行ったが、「毎年2回訓練を実施しているが、ただただやっているだけ。」「今決めてある地区の防災体制は機能しておらず、電話連絡網のみが生きている。」など内情がわかってきたため、昨年同様、地震防災に関するアンケート（全戸調査）を提案し、実施することになった。また、取組を行う上で部会員のスキルアップが必須だと思われることや避難所運営までのハードルが高いと考えられるため、取組案の修正を行った。

○6月5日 第2回地域防災検討会議

生活環境部会の部会員を集めての検討会を実施。出席者は10名。

今回は、部会員さんとの初顔合わせだったため、訓練に向けての取組案の説明と、部会員の防災意識向上とスキルアップも兼ねた研修を行った。また、昨年も実施した全戸アンケートの提案を行い、6月中に配布、7月中に回収を行うよう早急に準備することとなった。

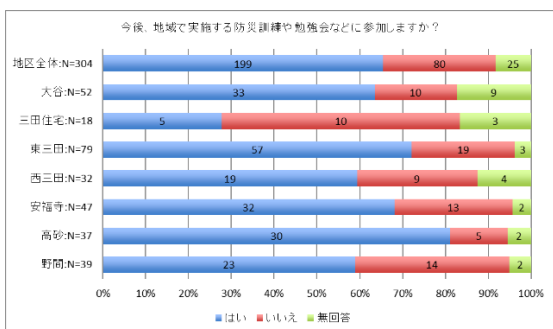
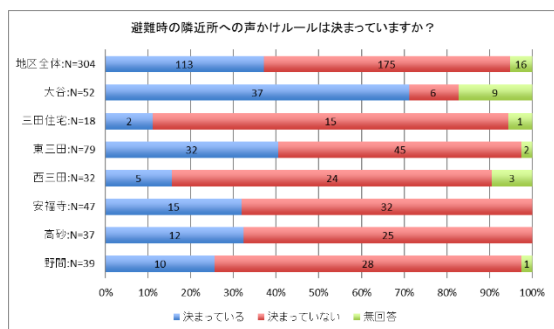
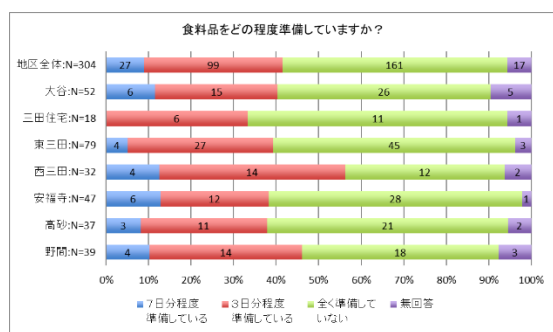
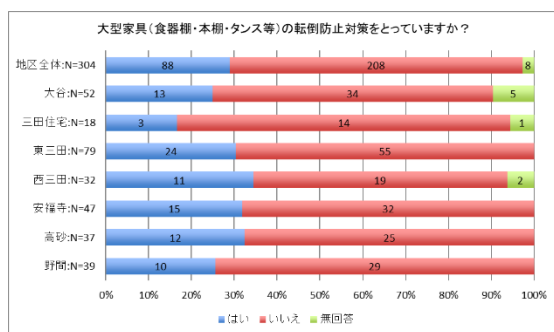


○6月下旬～7月 地震防災に関するアンケート（全戸調査）

地域全戸（734世帯）へ配布。最終的な回収率は41%。地区によって回収率の差がかなり大きく、防災意識の高い地区と低い地区が混在している。

アンケート結果については、比較的防災意識が高い地域だという市の認識とは違い、地域の防災意識は低く、特に「備え」や「備蓄」に対して顕著だった。以前に浸水被害にあっている地区でも、被災した住民のみの意識が高いだけだという感じ。

さらに、年2回も避難訓練（安否確認訓練）を実施しているにしては、避難に対する理解度は低く、住民主体の避難所運営訓練を行うには、今のレベルでは困難であると感じた。ただし、地域の防災勉強会等への参加意欲は高いという結果であったため、昨年同様まずは地域全体の防災意識の向上を行い、下地を作りつつ、地域が一緒になって防災課題を共有し、少しずつ解決していこうという方向に向くように取組を行う。



○7月10日 第3回地域防災検討会議

生活環境部会の部会員を集めての検討会を実施。出席者は10名。

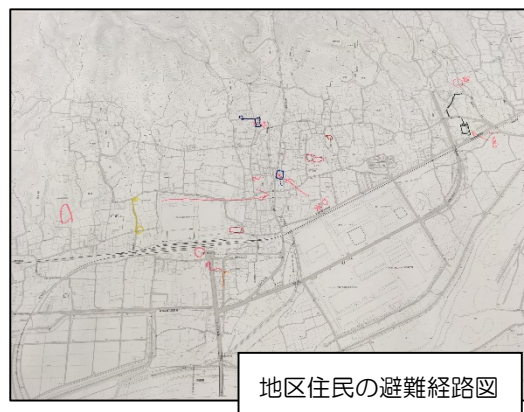
毎年実施されている地区防災訓練(避難訓練)が7月15日に実施されるため、今回は、避難訓練の意味を考えてもらうことを通して部会員のスキルアップを狙った。(この時点の部会員は、避難訓練だということは分かっている、「なぜ避難するのか、いつ避難するのか分からない」、「どんな状態なのかイメージできない」など、もったいない状況だった。)

訓練の意味(目的)、災害のイメージ、各区の避難方法(図上)を出しあったうえで、問題点を話し合った。

いろいろ問題点が出てきたが、それらを検討することなく行われていた防災訓練(避難訓練)であったことを理解していただいた。

問題点を頭に入れながらの訓練実施(次回会議で反省会)をお願いした。

最後に、10月27日の防災訓練をイメージしやすくなるよう、事例を説明。特に、前年度のプロジェクトで取り組んだ山田地区の反省をふまえた上で、伊勢市神社地区での取組の良かったところ(避難所体験など)を取り込む狙いがあるため、重点的にそこをプッシュしておいた。



○7月15日 三田地区防災訓練（キックオフ）

三田地区防災訓練《水害・土砂災害編》	
日時 7月15日（月）【海の日】	
第1部（初動避難） 08:30～	08:30～ 風水害により伊賀市から避難指示発令～各地区内で安否確認～各地区集合場所から避難開始（地区単位で避難）～市民センターに避難 09:45～ 市民センターに集合し避難者の集約（災害避難連絡網・安否確認表に記載）
第2部（防災講演会） 10:00～ 場所 三田地区市民センター2階ホール	10:00～ ① 防災講演会 講師 三田大学 川口 渉 准教授 ② 三田地域の防災課題へのヒント ③ クロスロードゲーム（災害対応ゲーム）
第3部（炊き出し訓練） 炊き出し訓練によるカレーライスの試食	12:00～ 1階会議室で
主催：三田地区住民自治協議会（生活環境部会）・各地区自主防災会 共催：伊賀市・三田公民館・消防団北部分団三田部 三田市生涯学習女性の会・三田地区住民自治協議会（農業産業部会） midimic みみこ防災・減災センター	



プロジェクトのキックオフとして、川口先生による講演会と、クロスロードゲームを実施。三田地区の住民約80名が参加。講演会の前には、住民の避難訓練が実施された。また、炊き出し訓練も実施。

地区毎にテーブル分けしたクロスロードゲームは、とても盛り上がった。この盛り上がりをも10月の訓練に繋げていければと思った。

○8月21日 第4回地域防災検討会議

7月15日の防災訓練振り返りと10月27日の三田地区防災訓練の取り組みについてのワークショップを実施。出席者は10名。

振り返って出た反省点を次回の訓練に生かすことができればとの思いがあった。訓練を通じて【やりたいこと、共有したいこと】として出た意見は、「被災体験（避難所体験）」「安否確認（ルール作り）」「役割分担」などであった。特に、避難所体験はしたことがないからやってみたい、ということから体験を中心に据えた訓練内容にし、また、安否確認は時間がかかるから今回はやめておこうという意見があったものの、それを上回る熱意で安否確認は絶対にすべきという意見があり、安否確認も取り入れたいという方向で意見がまとまった。

【地区の課題】として出た意見は、「体育館の有効な使い方」「地域の意識差」「要配慮者への対応」「長期計画」などであった。簡単に解決できる問題ではないため、課題解消に向けた一歩を踏み出せるような気持ちにさせる訓練にしたいと思った。

○9月18日 第5回地域防災検討会議

10月27日に行う防災訓練の内容について検討会を実施。出席者は16名。

前回の検討会議で出た方向での訓練素案を作成し、それをたたき台に検討を行った。避難声かけ訓練（安否確認）と避難所体験訓練がメインとなる。

8時に木津川断層を震源とする直下型地震（震度6強の強い揺れ）が発生することを想定した訓練を実施。発災後、各地区（組内）で避難声かけ訓練。区長（または責任者）は地区内の安否確認状況の把握を行う。その後、避難所（三訪小学校）へ避難する。

部会員らは避難所に集合し、受け入れ準備（施設簡易安全点検含む）をし、避難者の受け入れを行う。その後、参加者全員で避難所体験を実施する。水木先生の防災講話、講評も予定。

令和元年度 三田地区防災訓練開催のお知らせ

令和元年度伊勢市総合防災訓練が三訪小学校で開催されます。それに合わせて、三田地区防災訓練を開催しますので、地域の皆さまには、ご参加いただきますようお願いいたします。

と き 令和元年10月27日（日）
と ころ 各地区 → 三訪小学校体育館

【訓練想定】 午前8時木津川断層直下型地震発生（震度6強）

8:00～ 地震災害声かけ（安否確認）訓練
【向こう3軒両隣、ご近所との声を聞きあう運動とヨリが企画】
地震発生後、各地区（組内）で声かけ（安否確認）を行ってください。また、区長さんは地区内の安否確認状況をまとめてください。その後、住民（訓練参加者）は避難所へ移動してください。（※お持ちの方は非高持ち出し袋やヘルメットなど持参してください。）

9:00～ 避難所開設準備・避難者受付、収容訓練
避難所を開設し、避難者を受け入れる訓練です。受付を済ませた避難者は地区別に集合してください。（※体育館にはスリッパはありません。）

9:30～ ちょっと防災講話（避難所について）
講師：三重大学 水木千春 先生

10:00～ みんなで避難所体験
ぶちリアル避難所運営ゲーム（対象：地区役員）
物資訓練ほか

11:15～ ぶらっと防災自由時間（休憩）

11:45～ 閉会式・訓練講評

【訓練終了予定時刻】 12:00

展示・体験コーナー（三訪小学校運動場西側、体育館内）
※8時30分から体験できます。早く来るものおすすめ！
起震車・煙煙・消火器体験ほか（終了13:00）
※みなさま、ぜひ体験してください！

【お問合せ先】三田地区住民自治協議会 ☎21-3331（市民センター）

避難所体験についての中身を検討したところ、「スペース」「トイレ」「段ボールベッド」の3つを体験してもらうことに決定した。住民への説明等、やり方については、伊勢市神社地区での取組を見習い実施することとなった。

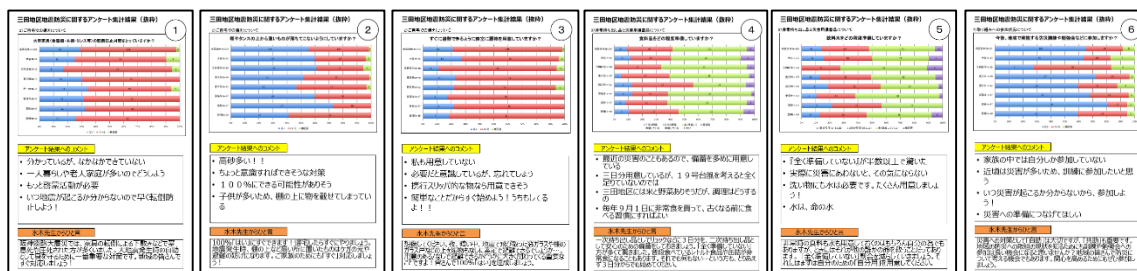


また、部会までに、防災活動への地区役員の意識改革を狙ったリアルHUGを訓練時に行うことを部会役員打合せで決定。さらに、部会終了後、地域の消防団に、訓練の手伝いという立場の脱却を目指して、想定発災の後、消防団としてどう動くか、何をすればよいのかを検討し、訓練として実施していただくようお願いした。（結果、訓練当日に、団員の安否確認訓練が別途実施された。）

○10月23日 第6回地域防災検討会議

防災訓練の事前練習。出席者は11名。準備、役割や段取りの確認、通しの訓練練習を実施。

また、住民の防災意識向上の一環として、実施した地震防災に関するアンケート（全戸調査）結果を周知しようということになり、水木先生のコメントを加えたポスターを作成したものを確認してもらった。



○10月27日 三田地区防災訓練（伊賀市総合防災訓練）

天候も良く、予定通り防災訓練を実施した。

8時から各区で声かけ（安否確認）訓練を実施。その後、三訪小学校体育館に集合。生活環境部会員により、体育館の安全点検と避難者の受け入れ（避難者受付）訓練が行われ、地区ごと（地区外者も）に受付・避難所への収容を実施した。



水木先生による「ちょっと防災講話（避難所について）」が始まるまでの間は、体育館内のポスターや展示ブースを見て勉強してもらった。また、運動場の起震車、煙道、消火器体験などに参加していただいた。先生のお話は、地区役員らから「よかった」と好評だった。





今回の訓練では、参加者みんなに避難所体験をしてもらうことがメイン。伊賀市災害ボランティアセンターのリアル HUG と連携し、水木先生の解説を加えながら「スペース」「トイレ」「段ボールベッド」の3つを体験してもらった。



参加者は興味を示していたが、最初はなかなか参加してもらえなかった。しかし、部会員らが一生懸命説明し、少しずつ会場内は盛り上がり、最後の「段ボールベッド」を説明する頃にはとても盛況になっていた。

また、訓練の中で地域のリーダーであるまちづくり協議会の役員（自治会長ら）を対象にリアル HUG（伊賀市災害ボランティアセンターにより実施）を合わせて行った。被災時の混乱の中での対応を体験してもらい防災意識を上げていこうという狙いだったが、対応が難しく、何をしたいのかわからずあたふたしているうちに終わってしまった感じだったそうだが、たくさん課題が出たので、平時のうちにマニュアルや計画を作っておくなどしておかなければといった意見が出てきたため、実施した成果はあったと考える。

○11月27日 第7回地域防災検討会議

出席者15名。三田地区防災訓練の振り返りワークショップを行った。議題は昨年同様3点。

①地区の反応（感想）はどうでしたか？

＜出た主な意見＞

- ・トイレや段ボールベッド体験に興味を示していた
- ・展示ブースのアナウンスがなく、近づきにくかった
- ・体育館が狭いと感じた。実災害が心配
- ・参加者が少なかった（特に若い方）
- ・帰宅困難者ということを考える機会になった

②訓練をやってみて、良かったところ、心配なところは？

＜出た主な意見＞

- ・体験型訓練を通して、知識が深まった
- ・皆に体験してもらうよう、もっと誘導した方が良かった
- ・年配の方や足の不自由な方への対応ができなかった
- ・行政に頼りすぎ。もう少し自分たちでやるべき。
- ・継続して訓練ができるよう、工夫が必要

③訓練を振り返って、防災視点で今後地域はどうすればよいですか？

＜出た主な意見＞

- ・災害の危険性が違うので、地区毎の訓練も必要
- ・各個人の訓練行動、課題等を記録しておくべき
- ・普段からの交流が大事
- ・若い世代の参加が大切（工夫が必要）
- ・防災訓練を続けることが大切（実体験型など）

避難所体験訓練は、多くの方の興味を引いたようで好感触だった。しかし、もっとたくさん参加してもらいたかった（特に子供！）などの意見が出された。三田地区はエリアが広く、災害時に地区ごとに対応は違って来るだろうとのことで、個人や家庭単位での防災を推進するような取組や地区単位の訓練なども重視するべきという認識を持たれた部会員が多かった。



○1月15日 第8回地域防災検討会議

出席者10名。前回の三田地区防災訓練の振り返りワークショップを受けての今後の三田地区防災目標決めワークショップを実施した。議題は2点。

①今後の地域の姿をイメージして、大きな目標を決めよう！

<出た主な意見>

- ・みんなで参加！一人一人防災に向き合おう
- ・もらさない安否確認で災害時も安全安心
- ・災害時も明るく乗り越えていこう
- ・子供から高齢者まで、交流の輪で災害に負けない地域

②先程イメージした地域になるために、来年度は何をしますか？

<出た主な意見>

- ・安否確認がきちんとできる訓練
- ・各家庭で災害時どうするかを考える取組
避難計画、個人の防災計画、備蓄、ペット
- ・子供が喜ぶ防災訓練
- ・個人個人の防災意識を高める
- ・各地区、各組で親交を深める参加型の催し

三田地区内では、実際にはただの電話連絡網的安否確認から1軒1軒丁寧にやっている安否確認までばらばらなため、きちんとした安否確認ができるまでちゃんとしたやり方を検討し、実施していくことを目的に訓練には毎回組み込んでいきたいという意見が中心のテーブルと、災害時には地域間の被害が大きく異なると考え、各地区の訓練や、各家庭・個人への防災意識を高める取組を進めたいというテーブルに分かれた。どちらも課題として大切だという意識であった。

今後の三田地区の防災を考える上で、メインの目標に据えて取組を継続していただきたいということで、次年度の事業内容に入れてもらうようお願いし、部会委員への今年度の取組を終了した。

○3月中旬 三田地区防災通信各戸配布

防災意識の向上と来年度以降への取組継続を狙い、今年度の取組を目に見える形にして、「来年度以降の目標を形にして留め置くべく」、地域全戸に配布を行った。

(4) 成果の活用と課題についての考察

今年度の取組スケジュールについても、取組開始時点の【当初の地域取組案】と最終的に実施した取組を比較する。

【実施した取組】

三田地区取組	開催日時・場所
第0回 防災講演会(プレキックオフ) 三重大学 川口 淳 准教授	1月27日(日) 三田地区市民センター
第1回 第1回地域防災検討会議(区長会説明) 三田地域の防災取組の進め方の説明会	4月11日(木)18時～
第2回 第2回地域防災検討会議 三田地域の防災課題出しと今後の組織や進め方の検討	6月5日(水)19時30分～
三田全世帯防災アンケートの実施	6月中
第3回 第3回地域防災検討会議 三田地域の防災課題出しと今後の組織や進め方の検討	7月10日(水) 19時30分～
第4回 三田地区避難訓練(土砂災害編) 防災講演会＋クロスロード 三重大学 川口 淳 准教授	7月15日(祝)
第5～7回 第4～6回地域防災委員会 考えた避難所運営計画をまとめる。(それをもとに伊賀市防災訓練を実施します。)	8月21日・9月18日 10月23日
三田地区総合防災訓練(避難所体験訓練)・伊賀市総合防災訓練	10月27日(日) 三訪小学校体育館
第8回・第9回 第7回・第8回地域防災検討会議 振り返りのワークショップ。今年度実施事業の反省をふまえ、次年度に向けた計画の作成等を行う。	11月27日 令和2年1月15日

三田地区防災通信の全戸配布 (R2.3.13)

今回も避難所運営訓練を実施する目標での予定を提案してから、地域の実情を勘案して、昨年の山田地域の取組と同様に内容は変更になっている。

- 1：予想された結果であったが、避難所運営はやったことがなく、やりたいという思いが強い地域でなければハードルが高かった。地域との話し合いの中で、もともと予定していた地域の取組を阻害しない形で修正し、また、昨年伊勢市で取り組んだ神社地区の事例を説明し、避難所「体験」から始める方向に変更した。また、山田で実施し、有効であったと考える取組前の全戸アンケートも実施した。
- 2：地域の組織体制はそのままにして、最終的に現状での課題を考え、修正も視野に入れられるように取組を実施した。そのため、昨年度より少しハードになってしまったことは反省点。
- 3：住民参加の体験型防災訓練は高評価だった。ただし、体験型訓練を引き続き行おうという安易な方向ではなく、現在の状況を見つめなおして、足元(いまま

で行っている安否確認や個人、家庭での防災意識の向上)のほうの取組を進めようという意見が多かったことは、成果であったと考える。

今回も、「地域の持つ防災力（地域力）を理解し、無理せずできるレベルを把握し、地域がやりたい方向で取組を実施する」という方法で、防災取組の継続ができる地域になることを目標に、取組を行った。最後には目標を立て、それを共有することで、来年度以降の取組がある程度ぶれないようにと考えワークショップを追加したが、地域の不安として出た意見の中で、地域の防災リーダーは1、2年という短期間で変わるため、防災目標・意識の継承はやはり簡単ではないということは大いに感じるところだった。行政として考え続けなければならないテーマだと思う。

第3章 取組成果の活用と課題

この2年は、「地域の防災に対する意識の向上と、主体的で継続した取組を図れるような仕組みづくり」をテーマに取組を行った。特に、伊賀市では、地域とともに実施する実働型の伊賀市総合防災訓練をテコに用いて、地域取組を実施し、取組後も地域が「地域主導で今後も取組を継続していこう」という意識になってくれればと検討、実施してきた。

防災の課題解決は、思った通り一筋縄ではいかないという思いしかない。特に防災活動を阻害する要因は、もともとの地域の課題でもあるものが多い。「子供や若い年代の参加が少ない」「地域内の交流が希薄になっている」「役員の交代が早く、また1からやり直し」などである。解決が困難な課題であるが、防災を切り口に地域づくりに取り組むということが解決への一助になり、防災活動の推進に繋がると考えている。今回行ったような、現状を把握し、そこから地域の向かいたいあるべき防災目標を見つけ出せるような取組を積み重ねていくことがまず大切であると考えます。

あたりまえのことではあるが、「地域の持つ防災力（地域力）を理解し、無理せずできるレベルを把握し、地域がやりたい方向で取組を実施する」という方法を進めていくことが、地域の防災力向上に有効であり、他地域にも有効なアプローチ方法だと思う。

行政として防災に取り組む場合は、PDCAを回そうという方向にすぐ持っていきがちだが、PDCAに必要なきちんとした計画を立てるところが、防

災意識の醸成がない地域では困難であり、現状を把握し、そこから地域の向かいたいあるべき防災目標を考えだせるような取組を積み重ねていくことがまず大切である。

しかし、地域と一緒に取組を考えていくようなプロセスは行政側の負担が大きいため、「地域の持つ防災力（地域力）を理解し、無理せずできるレベル【地域も行政も一緒に続けていくことができる】を把握し、地域がやりたい方向で取組を実施する」ことを今後も実施していければと考えている。

さらに、他地域に水平展開することを念頭に成果を考えると、毎年訓練を異なる地域で行うことで、多くの取組事例を集積し、市全域の防災意識の引き上げに使いやすいツールとすることができると考えるため、引き続き取組を継続していきたい。

なお、1市だけの取組では、大きな進捗は難しいが、今回の連携プロジェクトの一環として、伊勢市との協同取組を行っており、多くの地域の水平展開への活路となればと思っている。その活動事例は伊勢市の最終報告書に記載するので参照していただきたい。市の枠や地域を超えて、課題を共有し、取組を行えたことに多くの意義があったと考えている。

第4章 最後に

地域防災課題解決プロジェクトとして、2年間活動させていただきありがとうございました。また、本取組において様々なご指導、ご協力を頂きました川口先生、水木先生に心より感謝致します。



山田地域防災つうしん

山田地域住民自治協議会 防災・安全部会 第2018年度号

2018年度の防災活動おさらい（山田地域総合防災訓練）

6月24日（日）

三重大学の川口准教授
による講演

『住民共助による避難
所の運営について』



少しずつ
頑張ろう！



『住民共助による避難所の運営について』と題して、大山田農村環境改善センターにてご講演いただきました。災害時に、それを乗り越えるために自分でできること、家族で取り組むこと、地域が協力してやることを考えさせられるお話でした。今年度の山田地域に向けてのエールだととらえ、地域全体の防災取組を少しずつやっていこうとスタートを切りました！

7月下旬（全地区）

山田地域の現時点の防災意識を把握し、今後の取組の指標とするため、全戸配布し、地震防災に関するアンケートを実施しました。皆様ご協力ありがとうございました！

山田地域の地震防災に関するアンケート結果のポイント

- 地域の「備え」に対する意識は低い
- 避難についての理解度は低い
- 今後、防災勉強会等への参加意欲はとても高い！



※アンケート全集計データを見た方は防災・安全部会までお声がけください。

8月7日（火）

HUG訓練
（避難所運営ゲーム）

防災・安全部会にて、HUGを実施しました。山田地域で地震災害が発生したことを想像しながら、仮想避難所での対応をみんなで考えました。



9月13日（木）

第1回防災検討会

9月25日（火）

第2回防災検討会

10月9日（火）

第3回防災検討会

10月15日（月）

第4回防災検討会

伊賀市総合防災訓練にあわせて実施する山田地域防災訓練について、イメージ→内容検討→内容決定→準備・手順確認と議論を重ね、地域全体で取り組む総合防災訓練計画を作成しました。

山田地域防災訓練計画の完成

11月4日（日）

山田地域総合防災訓練



1月22日（火）

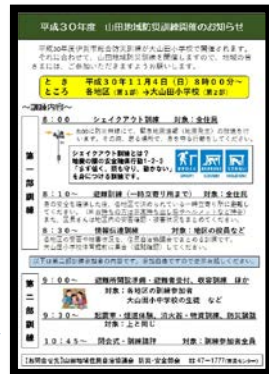
第5回防災検討会（訓練ふりかえり）

○振り返って：訓練内容の周知不足、防災無線が鳴らなかった、緊張感がなかった（リアリティに欠ける）、大災害で行動できるか心配、各地区ごとの訓練も大切、地域の防災体制を担う人づくりが必要、継続した訓練が必要、今後も繰り返し実施する etc 多くの意見が出されました。

今後の山田地域の防災活動について

- 継続して山田地域の防災訓練を実施
- 地域の防災意識を少しずつ高める

奥 自治協議会長より
地域の共助で災害時
死者0を目指して歩
み続けましょう！！



三田地区防災通信

三田地区住民自治協議会 生活環境部会

2019年度の防災活動おさらい（三田地区防災訓練）

2019年

1月27日（日）三田地区防災訓練（地震）

三重大学の川口准教授による講演

『災害に強い地域づくり』

『災害に強い地域づくり』と題して、三田地区市民センターにてご講演いただきました。災害時に強い地域にするためのヒントがたくさん詰まっていた。2019年度の三田地区防災取組への意識向上が図れば大成功。結果は今後のお楽しみです！

平成30年度
三田地区防災講演会

災害に強い地域づくり
～生き残り、生きるのびて、次つぎのために～

講師
三重大学大学院工学研究科
川口 淳 准教授
お話しめ！伊賀市防災アドバイザー
『災害に強い地域づくり』として県内外で活躍中！

平成31年
1月27日（日）10:00～
三田地区市民センター

中津川の伊賀市総合防災訓練会場に30年度に行うための、地震を想定した地震体験が行われた。地震が起きた瞬間に、避難場所へ避難することができた。地震が起きた瞬間に、避難場所へ避難することができた。地震が起きた瞬間に、避難場所へ避難することができた。

主催：三田地区住民自治協議会、伊賀市



7月15日（日）三田地区防災訓練（風水害）

三重大学の川口准教授による

『クロスロードゲーム』

ご講演と、『クロスロードゲーム』を通して災害の場面を考えました。地区ごとに意見を出し合い、大盛り上がりでした！

三田地区防災訓練（水害・土砂災害）

日時 7月15日（日）【第3回】

第1部（初動避難）
08:30～
各町、各地区集合場所
10:00～
三田地区市民センター
2階ホール

第2部（防災講演会）
10:00～
三田地区市民センター
2階ホール

第3部（炊き出し訓練）
12:00～
炊き出し訓練によるカレーライスの試食

主催：三田地区住民自治協議会、伊賀市



生活環境部会では 地域防災検討会

本年度は、伊賀市総合防災訓練とあわせて行った三田地区防災訓練の企画など、防災活動中心の検討会を計8回開催しました。

10月27日（日）三田地区防災訓練（伊賀市と共同開催訓練だよ）

令和元年度 三田地区防災訓練開催のお知らせ

令和元年度三田地区防災訓練が10月27日（日）開催されます。それにあわせて、三田地区防災訓練を開催します。地域の防災意識を高め、災害時に備えるために、ご参加をお願いします。

日時 令和元年10月27日（日）
10:00～12:00
三田地区市民センター

【訓練内容】午前8時～午後5時（雨天決行）

1. 8時～9時 地区防災訓練（避難訓練）
2. 9時～10時 防災講演会（避難訓練）
3. 10時～11時 防災講演会（避難訓練）
4. 11時～12時 防災講演会（避難訓練）

主催：三田地区住民自治協議会、伊賀市



三重大学・水木先生のちょっと防災講話



避難所って狭いよね体験



熱い説明！避難所のトイレ体験



ダンボールのベッドもイイね

訓練をふりかえって

〇ふりかえって：参加者が少なかった、体育館が狭いと感じた、体験型訓練で知識が深まった、継続して訓練するには工夫が必要、地区ごとの訓練も必要、若い世代の参加が大切 etc 多くの意見が出されました。

2020年

来年の目標を決めよう！

〇目標を決めよう！：今後三田地区がどんな地域になっていきたいかをイメージした防災目標について話し合いを行いました。災害時に犠牲を少なくするために安否確認がちゃんとできるようにしたい、地域が広いので、災害時にはそれぞれの区で被害状況は異なるから、家庭ごとひとりひとりがちゃんと防災について考えられる地域になりたい etc 多くの目標が出されました。それらの意見を踏まえて、来年度に実施したい訓練など意見を出し合いました。



今後の三田地区の防災目標について

- ・みんなで参加！ひとりひとりが防災に向き合える地域へ
- ・もらさない安否確認で災害時もみんなが安全安心な地域へ

これからも防災意識を高めていきましょう！！



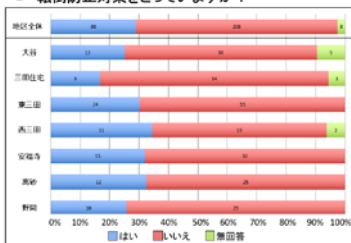
2019年度三田地区地震防災に関するアンケート結果について（要点版）

現時点の防災意識を把握し、取組の指標とするため、アンケートを実施しました。みなさまご協力ありがとうございました。今後とも三田地区の防災活動を一緒に頑張っていきましょう！

アンケート結果のポイント

- 自宅の備えをもっとしなきゃ…
- 食料・水など備蓄が少なくて心配…
- 防災訓練等への参加意欲は高いです！

① 大型家具（食器棚・本棚・タンス等）の転倒防止対策をとっていますか？



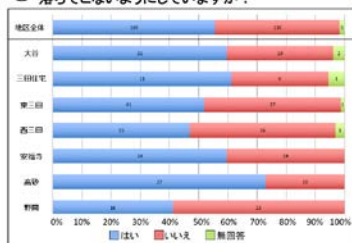
アンケート結果へのコメント

- ・分かっているが、なかなかできていない
- ・一人暮らしや老人家庭が多いのでどうしよう
- ・もっと啓蒙活動が必要
- ・いつ地震が起こるか分からないので早く転倒防止しよう！

水木先生からひと言

阪神淡路大震災では、家具の転倒による下敷きなどで窒息死や圧死された方が多くいました。大地震発生時の自動として身を守るために一番重要な対策です。地域の皆さんですぐ対応しましょう！

② 棚やタンスの上から重いものが落ちてこないようにしていますか？



アンケート結果へのコメント

- ・高砂多い！！
- ・ちょっと意識すればできそうな対策
- ・100%にできる可能性がありそう
- ・子供が多いため、棚の上に物を載せてしまっている

水木先生からひと言

100%「はい」にすぐできます！帰宅したらすぐにやりましょう。地震発生時、棚の上など高い所に置いたものはケガの元や避難の妨けになります。ご家族のためにも「すぐ」対応しましょう！

③ すぐに避難できるように寝室に履物を用意していますか？



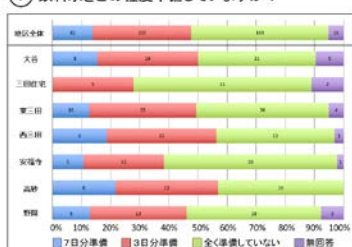
アンケート結果へのコメント

- ・私も用意していない
- ・必要だと意識しているが、忘れてしまう
- ・携行スリッパ的な物なら用意できそう
- ・簡単なことだからすぐ始めよう！うちもしてるよ！

水木先生からひと言

想像してください。夜、暗い中、地震で飛び散った窓ガラスや棚のガラス戸などの上を履物もなしに素足で避難できるでしょうか…。用意のある/なしで避難できるかどうかに大きく関わってくる重要なことです！皆さんで100%「はい」を達成しましょう。

⑤ 飲料水をどの程度準備していますか？



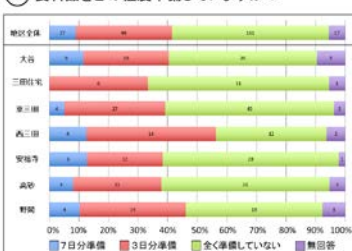
アンケート結果へのコメント

- ・「全」く準備していないのが半数以上で驚いた
- ・実際に災害にあわないと、その気にならない
- ・洗い物にも水は必要です。たくさん用意しましょう！
- ・水は、命の水

水木先生からひと言

非常時の食料も水も用意しておくのはもちろん自分の為でもあります。ときにはそれが他の誰かの命を救うことだってあります。「全く準備していない」割合を減らしていきたいです。それにはまずは自分のための「自分用」を用意してください。

④ 食料品をどの程度準備していますか？



アンケート結果へのコメント

- ・最近の災害が不安で、備蓄を多めに用意している
- ・三日分用意しているが、19号台風を考えると全く足りないのでは
- ・地区には米と野菜あそびだが、調理はどうしよう
- ・毎年9月1日に非常食を買って、古くなる前に食べる習慣にすればいい

水木先生からひと言

一次持ち出し品としてリュックなどに3日分を、二次持ち出し品として安心のための備蓄をしておきましょう。「全く準備していない」方が多くて驚きました。普段食べているレトルト食品や缶詰が非常食になることもあります。それでも何もない…という方も、とりあえず3日分からはじめてください。

⑥ 今後、地域で実施する防災訓練や勉強会などに参加しますか？



アンケート結果へのコメント

- ・家族の中では自分しか参加していない
- ・近頃は災害が多いため、訓練に参加したいと思う
- ・いつ災害が起こるか分からないから、参加しよう！
- ・災害への準備につなげてほしい

水木先生からひと言

災害への対策として「自助」は大切ですが、「共助」も重要です。地域の防災への取組の現状を知るために訓練や勉強会への参加は良い機会になると思いませんか？地域の皆さんで防災について考える機会でもあります。関心を高めるためにもぜひ参加しましょう。